

平成29年度 第1回

コミュニティ交通部会 資料

1. 経緯・現状等

- 平成24年、政令市移行に伴い区役所や出張所等へのアクセス改善や、不便な地域の解消を目的に導入。現在、北区植木町を植木循環ルートが運行中。
- 現在の運行継続基準は平均乗車密度1.5人以上であり、毎月1,000人以上の乗車が目標【運行実績】

植木循環ルート	H26 (1日7便)	H27 (1日8便)	H28 (1日8便)	H29 (~9月)
運行日数(日)	244	242	243	124
利用者数(人)	12,607	13,011	13,645	7,025
1月あたり(人)	1,050	1,084	1,137	1,171
1便あたり(人)	7.4	6.7	7.0	7.1
平均乗車密度(人)	2.35	1.86	2.16	2.36

平成29年度の取り組み等について

- 継続的な乗車率向上の取り組み
 - 植木地域校区自治協議会連合会、自治会での状況報告、協力の依頼
 - 桜井小学校2年生まちたんけん（別紙参照）
（先生を含む46名 対象便で1台増便 簡易的な乗り方教室を実施）
 - 大和地域グランドゴルフ大会に併せた地域の高齢者向け乗車イベント（予定）

2. ゆうゆうバス路線延伸の検討

経緯

植木地域校区自治協議会連合会において、地域として、ゆうゆうバスの道の駅「すいかの里 植木」までの延伸が要望される

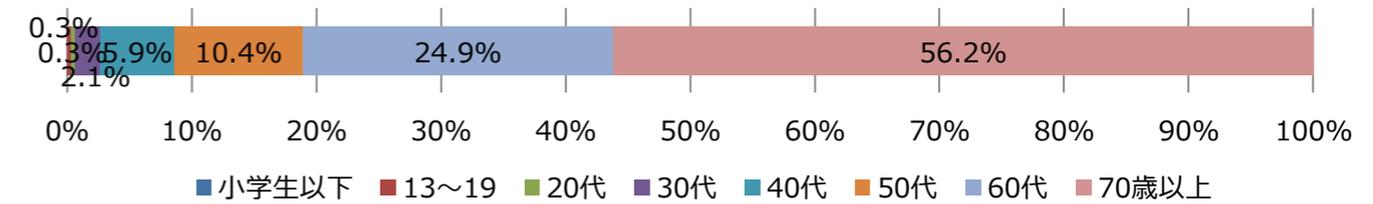
関係者協議のほか、利用意向を含めて、ゆうゆうバスに関する地域アンケートを実施。

- 既存ルート
- 延伸検討ルート

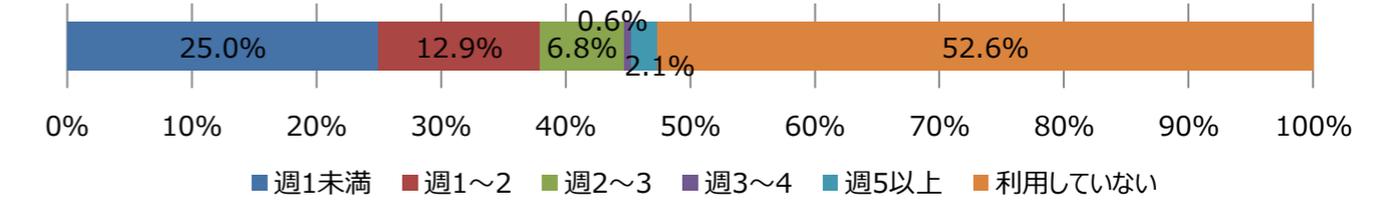


・ゆうゆうバス地域アンケートの結果（抜粋）
（平成29年9月に北区植木町大和地区 836世帯中340名から回答）

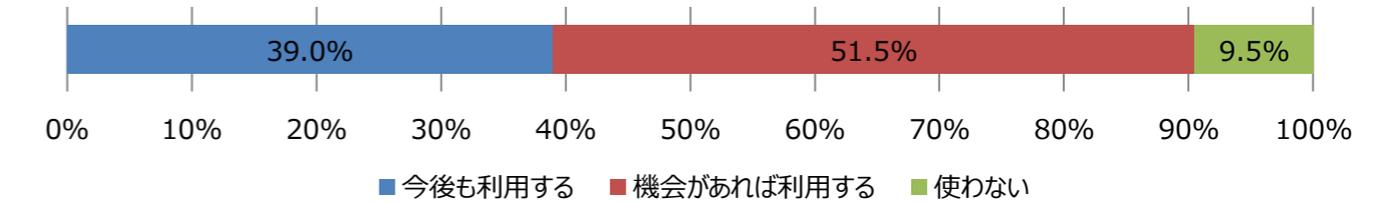
・回答者の年齢



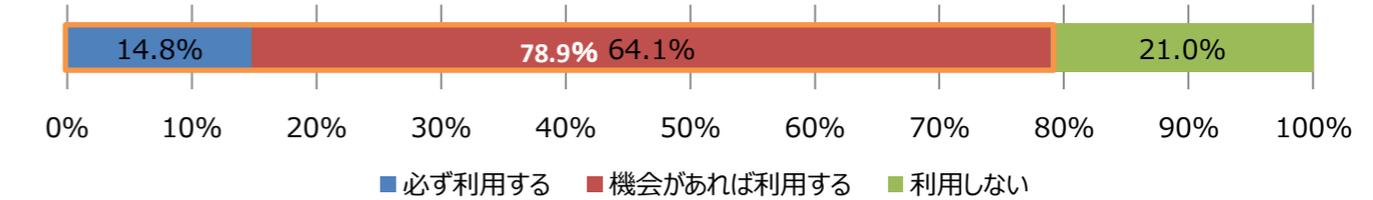
・今年度の利用状況



・今後の利用意向



・道の駅「すいかの里植木」延伸後の利用意向



・アンケート集計結果分析まとめ

- 回答者の半数近くが利用していて、9割が今後または機会があれば、利用意向
- 道の駅へ延伸した場合、約8割が「必ず利用」または「機会があれば利用する」と回答

3. 今後の運行について

来年度の運行について

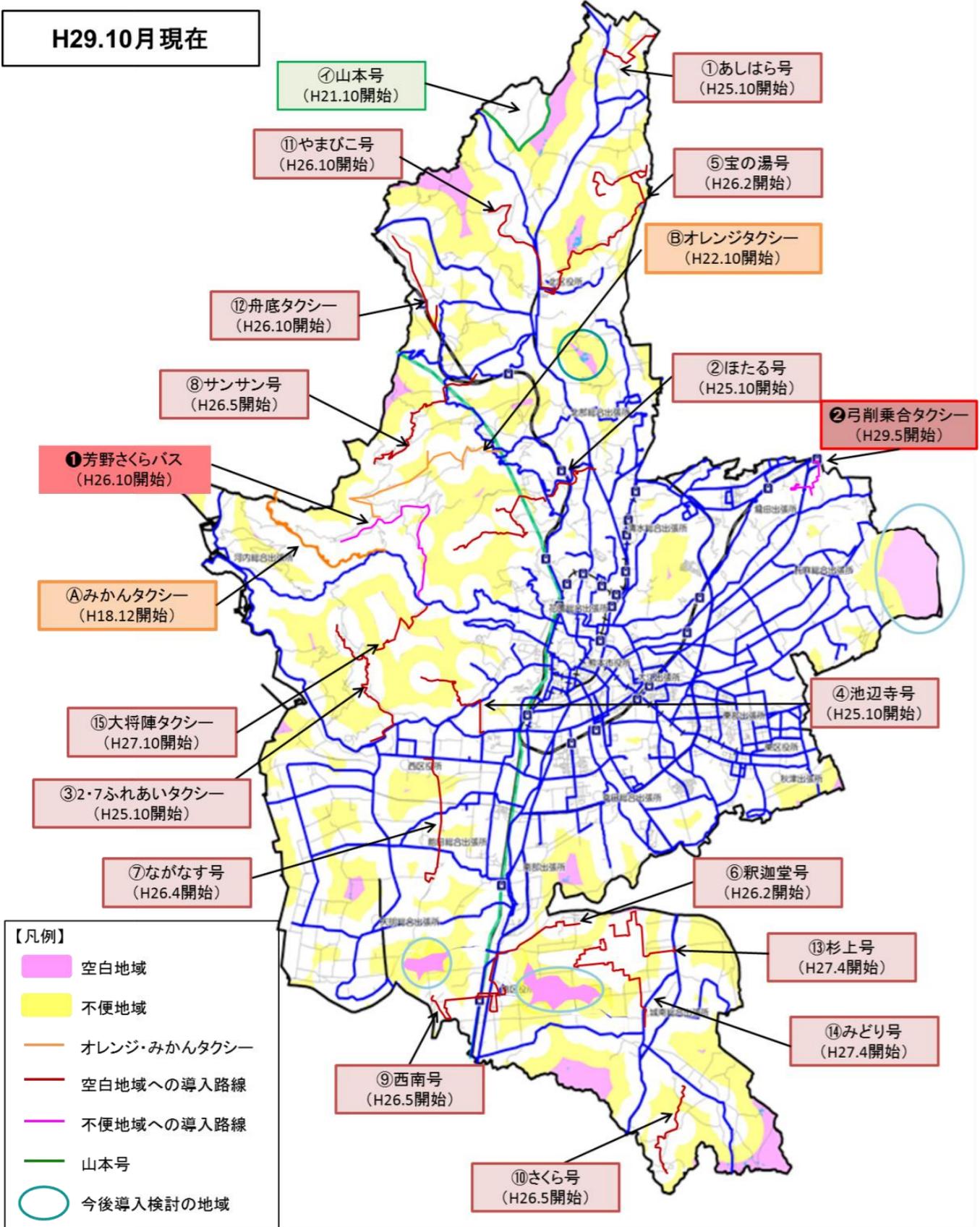
- 運行継続基準をクリアしていることもあり、来年度も継続して運行
- 引き続き、利用促進について、地域と協働して取り組む

道の駅「すいかの里 植木」への延伸について

- 利用者の意向を踏まえ、延伸する方向で検討
- 実現に向けて、引き続き関係者協議を実施

1. 空白地域対応コミュニティ交通の導入状況

平成25年、熊本市公共交通基本条例を制定。その中で公共交通空白・不便地域・準不便地域を定義し、それらの地域に対応した「コミュニティ交通」の導入制度を作成した。



2. みかんタクシー・オレンジタクシーについて

公共交通基本条例の制定以前から、路線バスの廃止代替として運行されているもの。みかんタクシーは平成18年12月、オレンジタクシーは平成22年10月運行開始。

	みかんタクシー	オレンジタクシー
運行主体	玉名市（事務局）・熊本市	熊本市
運行形態	区域運行 （定時定路線、事前予約方式、フリー乗降）	区域運行 （定時定路線、事前予約方式）
ルート	追分～焼野～赤仁田～草枕温泉～玉名市天水総合支所	太郎迫～横山～黒石～出羽公民館前～大多尾～芳野分室前
運行日 運行便数	毎日運行（12/29～翌1/3を除く）1日4往復8便（予約時のみ運行）	毎日運行（12/29～翌1/3を除く）1日4往復8便（予約時のみ運行）
運行車両	セダン型普通乗用車（4人乗車可能）	セダン型普通乗用車（4人乗車可能）
利用料金	均一料金 200円 小学生 100円 小学生未満 無料	均一料金 200円 小学生 100円 小学生未満 無料
運行距離	18.0 km	8.3 km

		27年度	28年度	29年度（～9月）
みかん タクシー	利用人数	3,136	2,731	1,462
	運行便数	1,344	1,294	663
オレンジ タクシー	利用人数	654	644	287
	運行便数	570	552	254

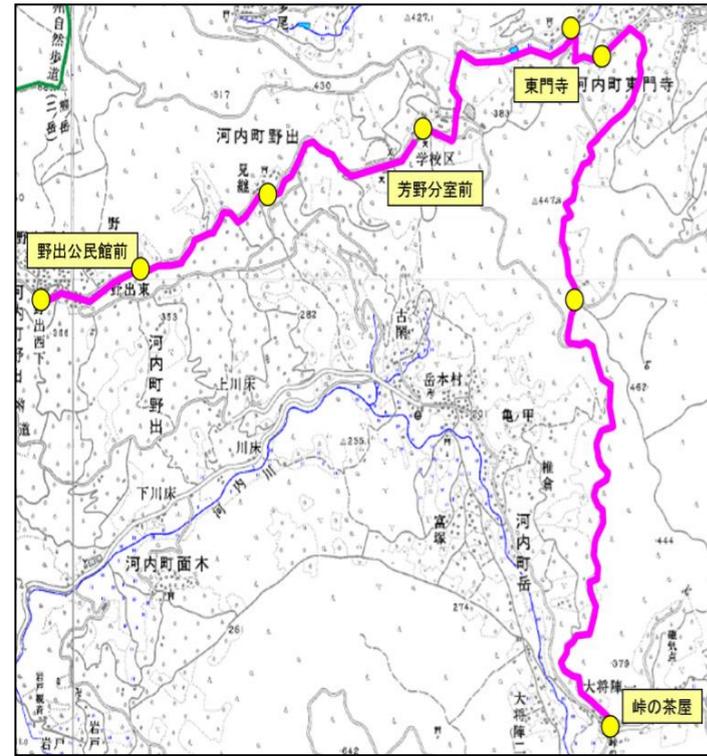
3. 空白地域対応コミュニティ交通の利用実績について

		27年度	28年度	29年度（～9月）
空白地域 対応	路線数	15	15	15
	利用人数	2,826	3,037	1,306
	運行便数	2,042	2,145	986

- 一部路線については、熊本地震による生活環境の変化などの影響もある模様
- 各路線ともに利用実績について、区役所や地域と情報共有をはかっている

4. 芳野さくらバスについて

平成26年10月、公共交通不便地域対応のコミュニティ交通として熊本市初の地域が主体となり運行する「芳野さくらバス」が運行開始。

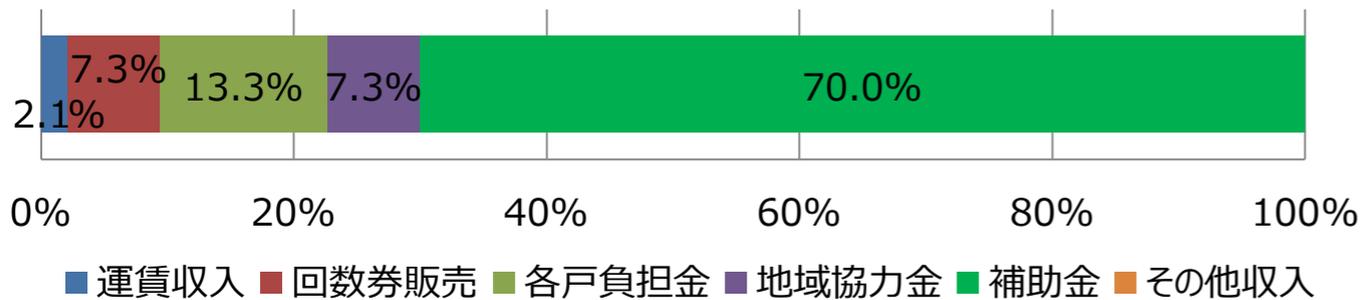


芳野さくらバスの運行形態等	
運行主体	芳野校区定期バス運行協議会
運行形態	定時定路線
ルート	(起点) 野出公民館前～芳野出張所～東門寺～(終点) 峠の茶屋
運行日 運行便数	毎日運行(12/29～翌1/3を除く) 1日5往復10便
運行車両	ジャンボタクシー(9人乗車可能)
利用料金	均一料金【大人(中学生以上)200円・小人(小学生以下100円)】 ただし、小学生未満については保護者1人につき1人無料とし1歳未満の乳児は無料とする。
運行距離	8.6km

年度別利用状況

	平成26年度 (10月～)	平成27年度	平成28年度	平成29年度 (～9月)	合計
利用者数	452人	931人	878人	474人	1,786人
(うち大人)	397人	862人	809人	446人	1,625人
(うち小人)	55人	69人	69人	28人	161人

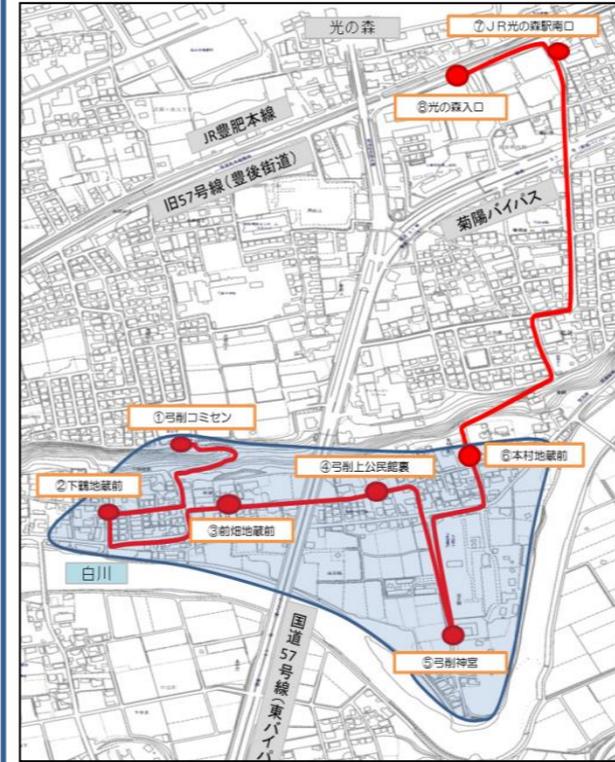
収支見込 (H29予算)



収支率3割の目標に対して、地域負担金、回数券販売、旅行商品など地域が主体となって努力されているが、苦勞している状況。効率的な運行を目指し、現在、運行協議会が運行事業者と協議を進めている状況。

5. 弓削乗合タクシーの概要・実績報告

平成29年5月、公共交通不便地域対応のコミュニティ交通として「弓削乗合タクシー」が運行開始。

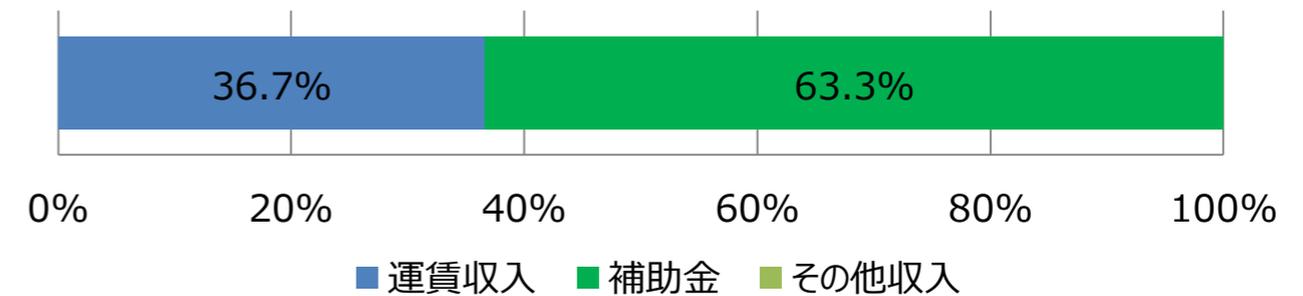


弓削乗合タクシーの運行形態等	
運行主体	弓削第一町内コミュニティ交通運行協議会
運行形態	区域運行(定時定路線、事前予約方式)
ルート	(起点) 弓削コミセン～弓削神宮～JR光の森駅南口～(終点) 光の森入口
運行日 運行便数	毎日運行(12/29～翌1/3を除く) 1日4往復8便(予約時のみ運行)
運行車両	セダン型普通乗用車(4人乗車可能)
利用料金	均一料金【300円】 ただし、保護者同乗時に限り、小学生は100円、未就学児は無料とする。
運行距離	2.9km

月度別利用状況

	5月	6月	7月	8月	9月	合計
利用者数	27人	17人	19人	17人	20人	100人
(うち大人)	27人	17人	19人	16人	20人	99人
(うち小人)	0人	0人	0人	1人	0人	1人

収支見込 (H29予算)



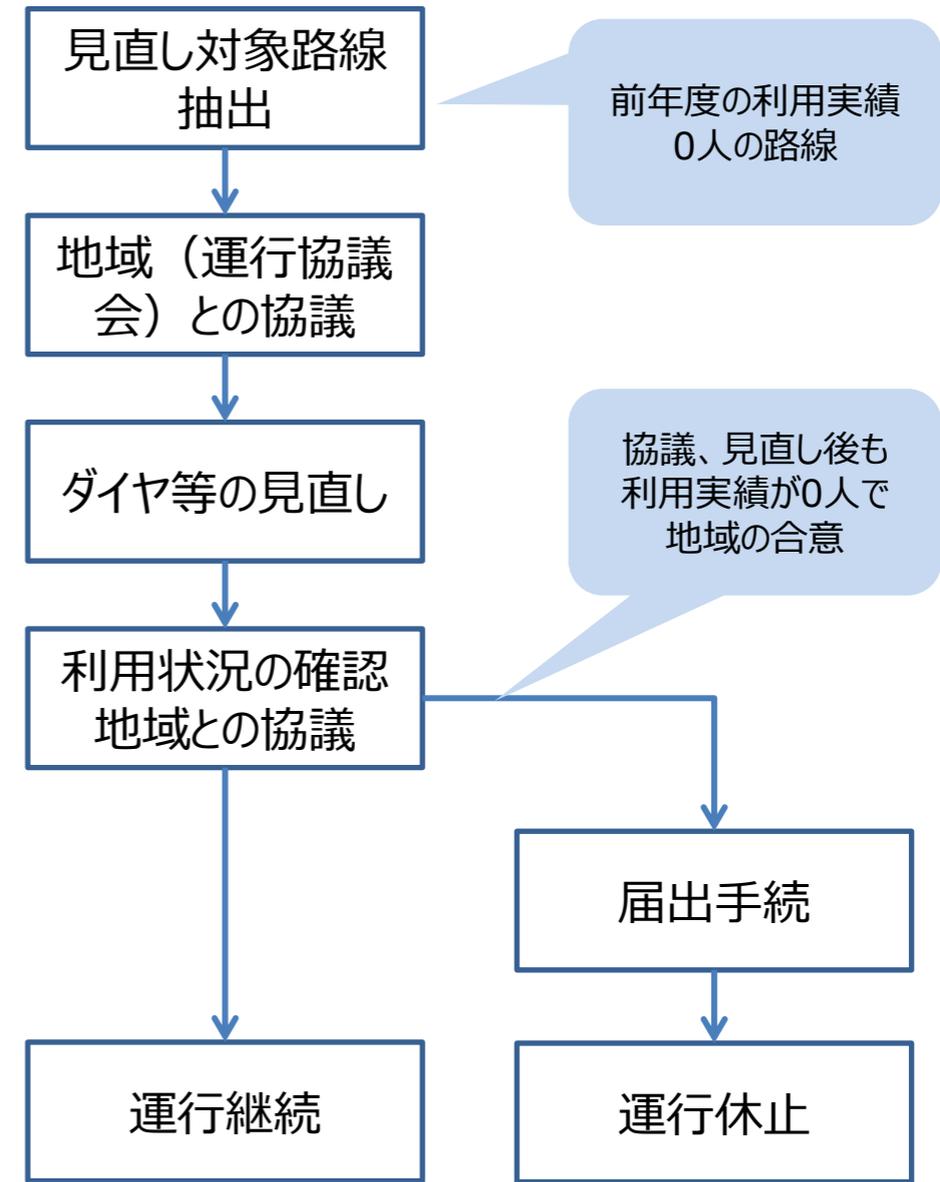
運行開始から概ね毎月20名程度の利用がある。一運行あたりの経費の3割を運賃にて確保する料金設定にて、運賃にて収入の確保ができていく状況。運行開始から、約半年経過した中で利用状況分析などを行い、運行協議会の取り組みを支援する。

6. 利用が著しく少ない路線について

公共交通空白地域対応乗合タクシーのなかで、利用が著しく少ない路線については、地域と状況を確認のうえ、何らかの見直しが必要。

	路線名		27年度	28年度	29年度 (~9月)
			利用者数		
①	あしはら号	利用者数	2	0	0
		運行便数	2	0	0
②	ほたる号	利用者数	29	4	3
		運行便数	24	4	2
③	2・7ふれあいタクシー	利用者数	1,518	1,669	628
		運行便数	933	908	386
④	池辺寺号	利用者数	311	370	167
		運行便数	265	348	155
⑤	宝の湯号	利用者数	513	362	177
		運行便数	417	332	154
⑥	釈迦堂号	利用者数	25	14	0
		運行便数	22	11	0
⑦	ながなす号	利用者数	32	0	5
		運行便数	31	0	5
⑧	サンサン号	利用者数	186	122	79
		運行便数	150	87	65
⑨	西南号	利用者数	2	22	15
		運行便数	2	22	15
⑩	さくら号	利用者数	20	2	0
		運行便数	18	2	0
⑪	やまびこ号	利用者数	10	43	11
		運行便数	10	36	11
⑫	舟底タクシー	利用者数	0	0	0
		運行便数	0	0	0
⑬	杉上号	利用者数	34	60	15
		運行便数	32	58	13
⑭	みどり号	利用者数	50	10	12
		運行便数	43	8	9
⑮	大将陣タクシー	利用者数	94	359	194
		運行便数	93	329	171
	合計	利用者数	2,826	3,037	1,306
		運行便数	2,042	2,145	986

利用が著しく少ない路線の見直しフロー（案）



運行休止の判断基準（案）

- 前年度の利用実績が0人で、当面の利用が見込めず、地域の合意が得られていること。但し、特段の事情がある場合は、除く。

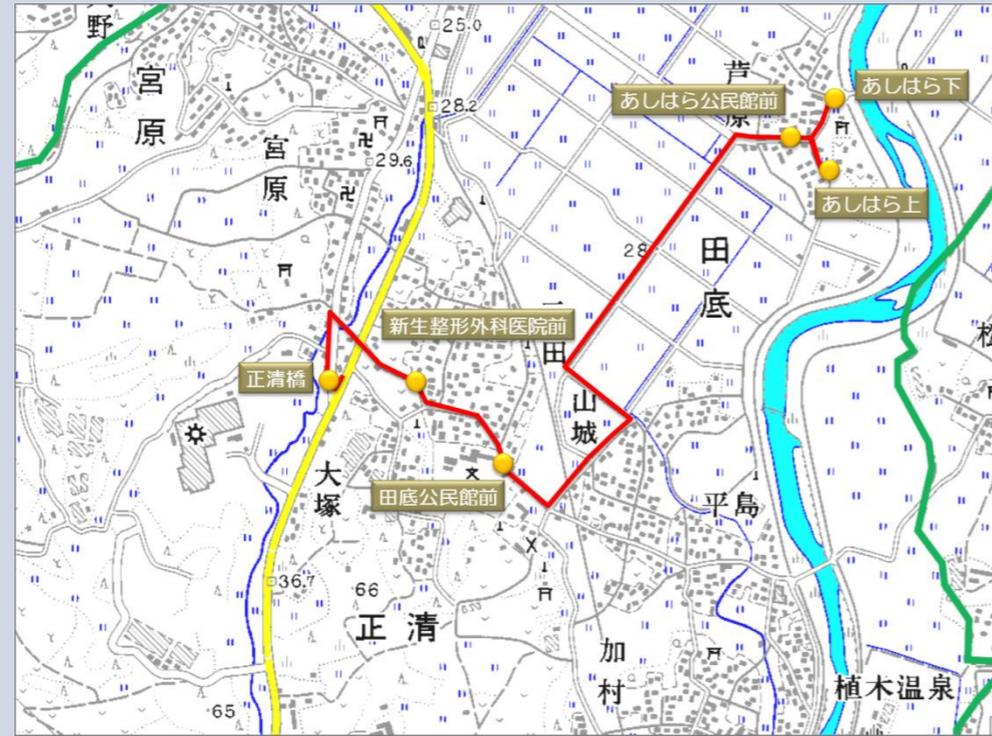
運行休止後について

- 利用再開について地域からの要望があれば、状況などを確認の上、事業者公募や認可手続きなど各手続き等を経て、運行再開に取り組む。

7. 「あしはら号」と「舟底タクシー」について

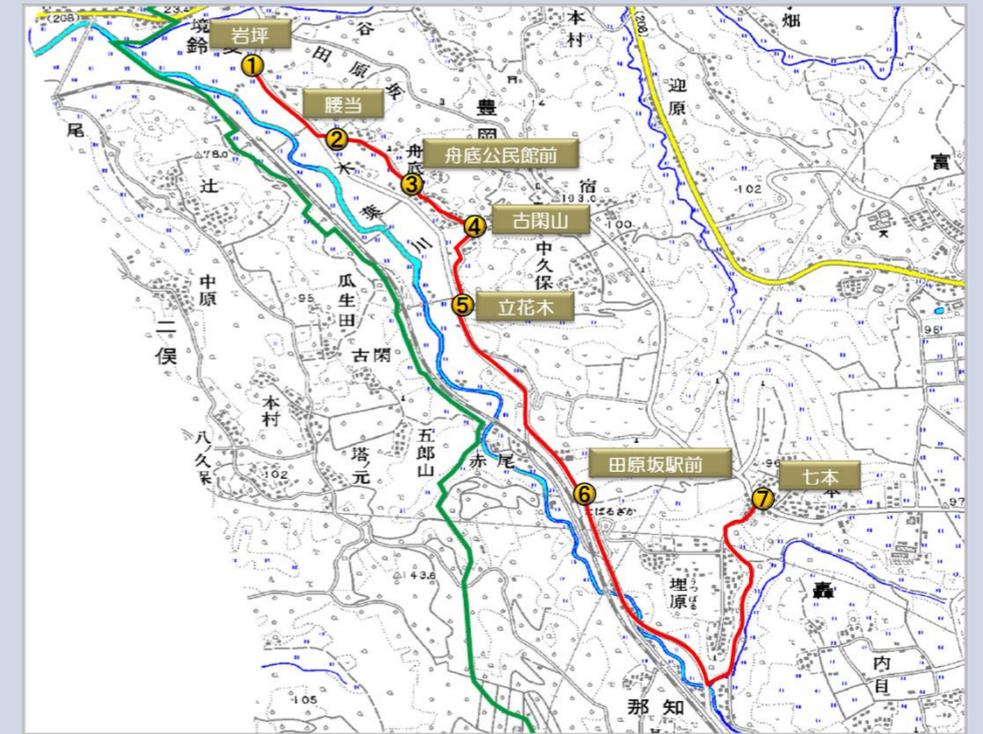
現在、昨年度の利用がなかった路線である「あしはら号」、「舟底タクシー」について、来年度四月からの運行休止について、地元と協議しているところ。

あしはら号



北区田底校区 芦原地区（約50世帯）

舟底タクシー



北区田原校区 舟底地区（約30世帯）

運行地域	北区田底校区 芦原地区（約50世帯）
運行形態	区域運行（定時定路線、事前予約方式）
ルート	あしはら下～あしはら公民館前～田底公民館前～新生整形外科医院前～正清橋
運行日運行便数	毎日運行（12/29～翌1/3を除く）1日4往復8便（予約時のみ運行）
運行車両	セダン型普通乗用車（4人乗車可能）
利用料金	均一料金 200円 小学生 100円 小学生未満 無料
運行距離	2.4 km

運行地域	北区田原校区 舟底地区（約30世帯）
運行形態	区域運行（定時定路線、事前予約方式）
ルート	岩坪～舟底公民館前～立花木～田原坂駅前～七本
運行日運行便数	毎日運行（12/29～翌1/3を除く）1日4往復8便（予約時のみ運行）
運行車両	セダン型普通乗用車（4人乗車可能）
利用料金	均一料金 200円 小学生 100円 小学生未満 無料
運行距離	4.4 km

- H29.4 H28年度の年間利用者が0人
- H29.6 区役所関係職員と状況確認
- H29.8 熊本市と運行協議会会長（自治会長）がこれまでの利用状況と今後の運行について協議
- H29.9 地域の自治会役員会にて、運行協議会長（自治会長）がそれぞれ利用状況等の説明
→ 運行休止について現在、それぞれの地域と協議中

1. 他都市の取り組み事例

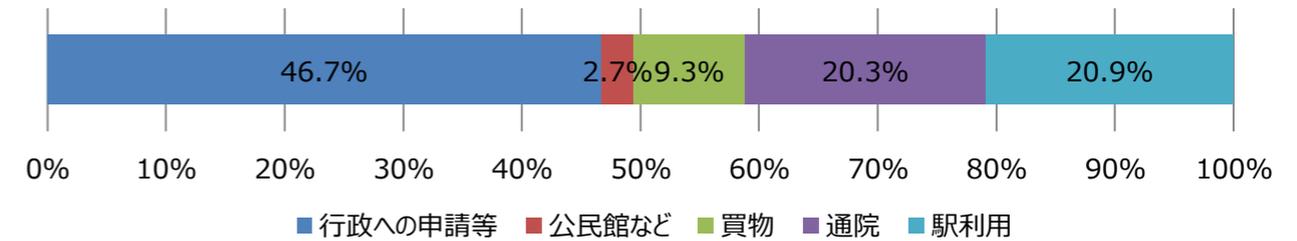
- 他都市の取り組み事例（九州内の政令市、県庁所在地から抜粋）

	福岡市 柏原三丁目における 路線バス乗り入れ	北九州市 おでかけ交通 枝光やまさか乗合タクシー	大分市 富士見が丘団地 おでかけ交通
地域の状況	近隣にバス路線があるものの、高低差がある団地内からの移動に苦労していた状況	高低差の有る団地	バス路線の乗り入れがあるが、団地内に高低差があり、移動に苦労している状況
導入・事業主体	地域	地域	地域
運行の内容	一般路線バス事業者による路線バス	タクシー事業者による乗合タクシー 運行日設定 + 事前予約	ジャンボタクシーによる乗合タクシー 事前予約、曜日限定、事前登録制
収入の確保	試行運行の実施により、運賃収入による採算性の確保を確認後、運行	地域の取り組みの成果が助成額に反映するように、協賛金を除く、運賃収入による収支率が高い場合に助成率が高くなる仕組み	利用者負担額（運賃200円）を除く、運行料金を自治会が負担。自治会負担分は、年会費（1000円）、行政からの自治会への補助、有貨物回収などで確保
補助制度	検討経費（年間50万円）、試行運行経費補助（経費の1/2と300万円のいずれか少ない額）本格運行経費の支援はなし	運行開始時に要する費用（最大460万円）、車両更新時に要する費用（最大300万円）、運行収支が赤字の場合に赤字額の一部に助成（赤字額 × 収支率）	行政はワークショップの開催などの支援は行いが、運行に関する補助はなく、行政から自治会活動への補助を含めた自治会予算で賄う
その他	地域がバス運行に支障となる箇所に駐停車禁止の看板設置	路線により、隔日運行や定期運行と予約型の組み合わせなどの工夫	富士見が丘団地は、ふるさと団地の元気創造推進事業モデル団地

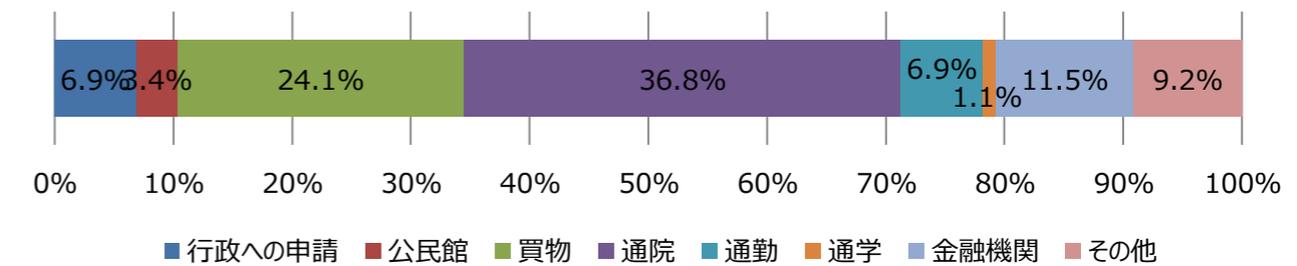
いずれも、地域からの要望などをきっかけに、制度の検討がすすめられ、住民主体の取り組みを支援する事例であり、既存の地域公共交通との整合性も考慮したものとなっている。

2. 地域のニーズについて

- 移動目的に関するニーズ（ゆうゆうバス植木循環ルートの実例）
 - 運行開始時の調査による見込み（H23 アンケート調査などによる）

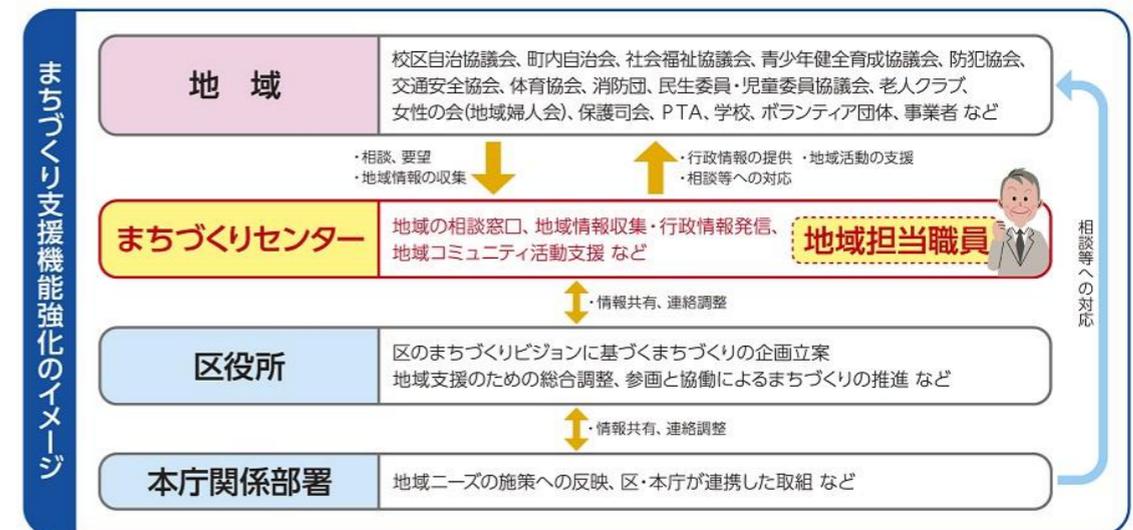


- 実利用者の回答（H28 3日間全乗客からの聞き取り調査）



政令市移行に伴い、区役所へのアクセス改善などを目的に導入したが、行政への申請等の移動は利用頻度が高くなく、通院や買物が多数を占める結果となっている。

- 地域ニーズの把握について
今年度より、地域づくりを支える行政の支援体制を充実させるため、これまでの出張所や公民館などを「まちづくりセンター」として再編し、まちづくり支援専任の地域担当職員を配置。



既存コミュニティ交通の制度概要なども含め、各区役所を巡回し、区役所職員、まちづくりセンター地域担当職員に周知・連携を図っているところ。

今後区役所、まちづくりセンターと連携し、ニーズの把握に努めたい